

KT師の重賞本命と見解【G1菊花賞2021】

ここ数年の阪神芝 3000m 以上重賞はディープインパクトの血を持つ馬が圧倒的。

2019 年以降で馬券になった馬の半分以上はディープを持つ馬。

ディープを持つ馬の出走比率は 25%程度ですから、かなりの複勝率。

5 人気以内に支持されたディープの血を持つ馬も複勝率 80%以上。

馬券になれなかったのは 1 頭のみ。

同じくディープが走るダービーと阪神の長丁場の違いは欧州の血の濃さ。

ダービーに縁があるのは米国型のスピード型が強調され
欧州指向の薄い馬が走りやすいですが、阪神は欧州の血や
ノーザンダンサー系の馬力が強調された馬が目立ちます。

本命はレッドジェネシス。

父ディープ。母系にサドラーズウェルズ。

ディープとサドラーを持つ馬はダービーでは連対馬がないのですが、
長距離レース向きや古馬になって力をつける馬が多いです。

ダービー向きではないディープの配合こそ菊花賞向き。

前走は馬場が他の馬より向いたために 2 着に走りましたが、
叩き上昇の血統。自身の上昇を見込めます。

逆に父がバゴでも休み明け 2 戦目が不安なのはステラヴェロージェ。

近親に快速ゴスホークケンの米国牝系。

休み明けから走れる素軽さがあったからこそ、
ダービーにも向き、2歳のマイル G1 でも走れたのでしょう。

対抗はオーソクレース。

本命馬と同じくディープとサドラーを持つ馬。
母は宝塚記念勝ち馬のマリアライト。やはりタフな阪神芝が合う血統。

ディープモンスターは父ディープ。
ノーザンダンサー色が濃い母系。
母父は天皇賞春勝ち馬(マイネルキッツ)も出したチーフズクラウンの系統。

母母父ディキシーランドバンドは母系に入って菊花賞(デルタブルース)を出した種牡馬。

以下、ディープ持ちの 6、11、12 は相手に拾います。